

キヤノン株式会社
2025年経営方針説明会

イメージンググループ

2025年3月7日

副社長執行役員 イメージンググループ管掌

戸倉 剛

Canon

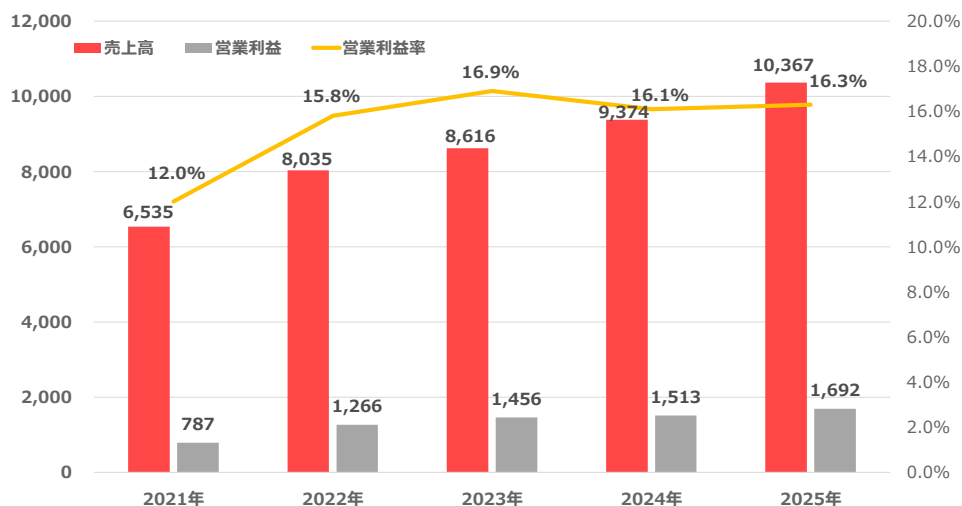
本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

一部画像を削除しております。

イメージング PL推移

売上高/営業利益(億円)

利益率



2024年は大幅な増収増益を達成しました。

売上が9,374億円で、グローバル優良企業グループ構想Phase VI初年度の21年比で+43.4%の増収、営業利益は1,513億で21年比で+92.2%の増益となりました。

2025年にはイメージンググループとして売上1兆円以上、営業利益率16.3%を目指します。

2024年の成果と課題 & 今後の成長に向けた取り組み

2024年までの成果と課題

■ 成果

- カメラ : レンズ交換式カメラ22年連続シェアNo.1を維持
: ミラーレスフラッグシップ機 EOS R1発売や、RFマウントレンズ累計56本※など、ラインアップを更に拡充
: CINEMA EOS SYSTEMでは新製品を発売し、幅広い映像コンテンツの制作ニーズに対応
- ネットワークカメラ : 4年連続で二桁増収 Milestone に BriefCam と Arcules を統合してソリューション事業を強化
- その他新規事業 : 3Dイメージング領域への取り組み強化

■ 課題

1. 世界的なインフレや不安定な世界情勢の中で、成長継続と高収益性の維持
2. 多様化する価値観やニーズなど、環境変化への対応

※シネマレンズ含む本数



今後の成長に向けた取り組み

1. カメラ市場での絶対的な地位を確立
2. グループ連携によるネットワークカメラ事業の拡大
3. 生産性向上による利益体質の強化
4. 新しい事業領域への展開

2

レンズ交換式カメラはお客様にご評価いただき22年連続シェアNO.1を維持しました。ミラーレスカメラではフラッグシップ機「EOS R1」を発売し、RFマウントレンズは累計56本と、ラインアップをさらに拡充しました。

また、シネマEOSシステムにおいても新製品を発売し、小型、軽量なカメラボディによって、高い機動性を確保し、多様な撮影スタイルを可能とするなど、幅広い映像コンテンツの制作ニーズへの対応をさらに進めました。

ネットワークカメラはアクシスが継続して増収を達成し、また、マイルストーンにブリーフカムとアーキュリーズを統合して、ソリューション事業の強化を図りました。

新規事業では「EOS VR System」や「MREAL」など3Dイメージング領域への取り組みを進めました。

2025年の目標達成に向けた課題の1点目は、昨今の世界的なインフレや紛争など不安定な世界情勢の中で、どのように「成長継続」と「高収益性」を維持していくかです。

2点目は、多様化する価値観やニーズなど、環境変化にどのように対応するかです。

これらの課題を受けてイメージンググループとしては、4つの戦略・取り組みを進めています。

1. カメラ市場での絶対的な地位を確立

高度な光学・カメラ技術をベースに、多様な顧客ニーズに応える商品・サービスを提供する



- EOS Rシステムだからこそ実現できる魅力ある商品の継続投入による圧倒的MLシェアNo.1実現
- 静止画のみならず動画撮影ニーズにも対応したハイブリッドなカメラ・レンズラインアップの拡充
- 若年層へのスマートフォンとは異なる価値体験の提供
- AIの活用も含めたカメラ・レンズの各種機能、性能の向上
- プロの仕事を止めないゼロダウンタイムを目指し、最高のサービス・サポートを提供

3

昨今、映像制作や報道などプロの領域では省人化/ダウンサイジングの流れが加速し、アマチュア市場においてもSNSでの映像共有など、動画も静止画も高画質で扱いやすい機材の需要が高まっています。また、若年層のカメラ需要の高まりも確実に顕在化しています。

このような市場の変化に対応するべくプロから一般までの動画志向顧客を取り込むこと、そして若年層からの支持獲得、加えてプロからの絶対的信頼を得るといったことを特に意識して取り組んでいます。

そこではEOS Rシステムだからこそその魅力ある商品の継続投入によるミラーレスシェア圧倒的No.1の実現です。

動画撮影ニーズに応えるハイブリッドなカメラ・レンズのラインアップ拡充を図り、若年層からのカメラ需要をさらに喚起すべく、撮影からライブ配信などの共有まで気軽におこなえる商品を展開し体験価値を高めていきます。

また、現行機種においてもディープラーニングを用いてノイズリダクション、被写体検出、トラッキングなどの性能向上を実現していますが、さらにAI技術の活用も含めてカメラ・レンズの各種機能、性能の向上も図ります。

プロから絶対的な信頼をいただくための努力も継続します。製品としての性能面だけでなく、様々なプロスポーツイベントにおいてプロの仕事を止めないゼロダウンタイムを実現すべく最高のサービス・サポートを提供します。来年協賛する名古屋でのアジア大会においても、力を入れて臨みます。

2. グループ連携によるネットワークカメラ事業の拡大

キヤノングループのシナジーを推進し市場での地位を強化する

【ネットワークカメラ市場】

セキュリティから映像ソリューションへ拡大し継続成長

映像ソリューション市場

生産性向上
人手不足解消
業務改善

セキュリティ市場

安心・安全



【キヤノングループ施策】

ハードとソフトのトータルソリューションを強化

ハード 圧倒的なネットワークカメララインナップ



ソフト 業界屈指の映像管理・解析ソリューション



ネットワークカメラは、これからも監視・セキュリティ用途での成長が見込まれています。それに加えて、今後は、小売り、製造、教育、医療、など様々な現場で、生産性向上や人手不足解消を目的にしたDX用途での映像ソリューションが広がり、活用領域が拡大しています。インフラ点検なども重要な対象となる見込みです。

この成長市場に対して、ハードでは、アクシスの圧倒的な製品ラインアップに加え、キヤノンの高度な光学映像技術とSPADセンサーなどのデバイスとの連携でシナジー効果を高め、新たな市場開拓を目指します。

一方、ソフトでは、ブリーフカム、アーキュリーズを統合したマイルストーングループの映像管理・解析技術を活かし、クラウド、AIによる解析強化やIoT連携を加速します。

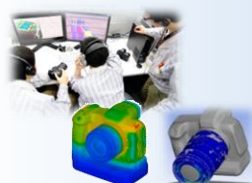
ハードとソフトを組み合わせ、お客様の課題解決に最適なソリューションを提供することで、事業の拡大を狙います。

3. 生産性向上による利益体質の強化

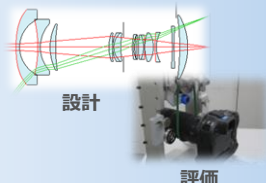
最先端技術を活用し、効率的開発・最適生産の体制を構築する

効率的開発体制

シミュレーション活用



自動化



最適生産体制

自動化



内製化



AI技術活用



設計プロセス革新



生産プロセス革新

開発としてはシミュレーション活用で、これにより短期間で設計の完成度を上げ、効率的な開発を一段と加速します。既にメカ、電気、実装、光学の各分野で独自のシミュレーションを開発し活用してきており、これをさらに拡大していきます。

また、製品開発における自動化を推進していきます。

特に独自の開発ルールを持ち合わせる光学設計においては基本設計の自動化をさらに加速し、カメラ・レンズの多機能化、高機能化に伴い工数が増大している製品評価においても自動化を進めます。

生産部門においては、特に国内において生産性を上げながら高品質な製品を実現するために、自動化の取り組みを継続して強化します。

内製化にも注力し、組立だけでなく部品加工においても内製化を進めることで独自のモノづくりを磨き上げ高品質、高精度な仕上げを実現していきます。

そして、開発、生産のプロセス革新における共通の取り組みとして、急速に進化するAI技術を活用し、様々な人手作業時間の短縮、無人化の推進、匠技術のデジタル化などプロセス革新を進めていきます。

4. 新しい事業領域への展開

3Dイメージングのユースケース拡大

EOS VR SYSTEM

高画質な3D VR映像撮影



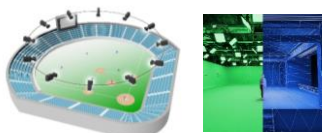
MREAL

デジタル立体イメージと
現実世界の違和感ない融合



Volumetric Video

リアルタイム3D生成



東京ドーム、スタジオで実証展開

EOS画質3D

EOS 1台 ワンショットで
高画質な3Dデータを生成



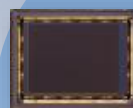
ワンショット撮影

3Dデータ化

コンポーネントビジネスの立ち上げ

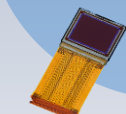
内製技術の活用

内製デバイス



SPAD
SENSOR

光学技術



μOLEDモジュール

3Dイメージングについては、独自技術を活かした多様なソリューションを開発しており、将来に向けた技術基盤を確立するとともに、市場の拡大に継続して取り組んでいます。

EOS VRシステムはアップルヴィジョンプロのスペシャルビデオ撮影機器として認定されましたが、さらに鑑賞機器やコンテンツ制作などのパートナーと連携していきます。

MRは開発・製造現場における仮想試作検証や仮想トレーニングの場を広め、ボリュメトリックは既に設置済みの施設を用いて実験検証を重ねていきます。EOS画質3Dは普通のEOSで簡単に3D映像を生成でき、その用途展開を検討していきます。

カメラ技術で培ってきた光学技術と内製デバイスを活用したコンポーネントを商材としたビジネス化にも取り組んでいます。

これらは顧客の要求に合わせてデバイス単品であったり光学部材を組み合わせたモジュールであったりと、個々に最適化したソリューションで提供していきます。